

学

年

通

信

令和3年6月号
3学年発行

力を合わせて頑張ろう！

梅雨を思わせる霧雨のじめっと暑い日があるかと思えば、カラッとさわやかに晴れ上がり朝晩は気温の下がる日もあり、体調管理が難しい季節です。相変わらず世の中はコロナウイルスに振り回され、能登地区の高校でさえもクラスターが発生するほどで、石川県の隅々までも脅威におびえている状況です。

さて、そんな中でも5月末に実施された陸上部の大会ではたくさんの種目で北信越大会の出場を決めました。また商業部の大会でも、簿記会計・情報処理で団体優勝、個人の部でもたくさんの生徒が活躍するなど素晴らしい成績を残してくれました。そして今週からは県高校総体もいよいよ始まります。絶対弱気にならず、辛いところを耐え、これまで鍛えた心と身体を信じて戦いぬいてほしいと思います。「成功の秘訣は成功するまであきらめないこと。」という言葉もあります。あきらめず、力を合わせて頑張らしましょう！

【今月の目標】

- 期末考査に全力
- 部活動に集中
- 感染予防

【今月のおもな予定】

- 3日～6日 県高校総体
- 16日 基礎学力試験
- 17日 国公立・難関私大・看護セミナー
- 28日～7/1 1学期期末考査

【粟津誘客に高校生が一役！】



【今月の人】(アクタスより抜粋) **奥川 恭伸さん**

「耐えて勝つ」。奥川投手が座右の銘を体現し、プロ初勝利を挙げた。4月8日の広島戦。一回に4点を失い、三回にも鈴木誠也外野手にソコ本塁打を被弾したが、打線の大量援護を受けた。五回10安打5失点と納得のいく投球ではなかったが11-7で勝利。「野手の皆さんにたくさん点を取っていただいて、初勝利を挙げるのができた。うれしい気持ちでいっぱいです。」初のお立ち台で笑みがこぼれた。



昨年11月10日のプロ初登板(対広島)は三回途中9安打5失点。自信を失くし「誰とも会いたくなくなりました」と塞ぎこんだ。それでも「この先で抑えれば評価は変わるし、結果を出さないと。今は何を言っても負け惜しみになる」と自信と向き合い、敗戦を受け止め成長の糧とした。

初勝利のウイニングボールは「両親に届けたい」。「勝つことは簡単じゃないということを自分自身感じました。チームを勝たせられるような投球が毎試合できるように頑張っていきたい」と改めて決意を口にした。

奥川選手は星稜高時代から後輩思いの一面がある。2年時に日本代表メンバーに選出された際の話だ。宿舎では当時、大阪桐蔭高3年だった中日・根尾昂内野手と同部屋だった。当時、星稜で内野を任されていた内山捕手の励みになればと奥川投手が間に入り、内山捕手に電話をつないだ。内山捕手はその電話がプロ入りへの転機となったという。「奥川さんを通じて根尾さんと連絡する機会があって、そのときに守備や打撃のことを聞かせていただきました。すごく丁寧に教えていただいて、野球に対する高い意識に感銘を受けました」と振り返り、こう続けた。「その電話をきっかけに根尾さんについての記事を見るようになり、自分の意識がすごく高まった。それがなかったら今の自分はなかったなと思います」。ちょっとした奥川投手の配慮が、内山捕手にとって大きな財産となった。